

大高川の生き物と水環境

1 大高川の概要

大高川は、緑区の水主ヶ池（かこがいけ）を源とし、扇川に合流する延長約2.9 kmの河川です。

大高川の流域は、大高緑地やため池、畑など緑地や水辺が残されています。また、大高川には、農業用取水堰のラバーダムが設けられおり、かんがい期には、ラバーダムに空気をいれて膨らませ河川の水を堰上げて農業用水を取水しています。



大高橋付近



ラバーダム



2 大高川の生き物

下流部は2020年度、中流部は2022年度に調査を行った結果、計28種の魚類が見つかりました。

下流部は、名古屋港に近いことから、たくさんの種類の魚が確認されます。ニホンウナギやトビハゼなどの貴重な生き物も確認されています。

オオクチバスなどの特定外来生物が確認されており、生態系への影響が懸念されます。

- ★：名古屋市の絶滅危惧種
- ▲：特定外来生物
- ：魚が確認された区間

魚種	瀬木川合流点より下流	瀬木川合流点より上流
★トビハゼ, シモフリシマハゼ,ピリンゴ, ハゼ科,カムルチー		■
★ニホンウナギ, コイ,モツゴ,ボラ,スズキ, マハゼ,チチブ, ▲オオクチバス	■	■
★ミナミメダカ, ★カワアナゴ, ★スミウキゴリ, ★ウキゴリ, ゲンゴロウブナ,フナ属,オイカワ, ホンモロコ,アベハゼ,ヌマチチブ, ゴクラクハゼ,トウヨシノボリ類, タイリクバラタナゴ, ▲カダヤシ, ▲ブルーギル	■	
種類数	23	13

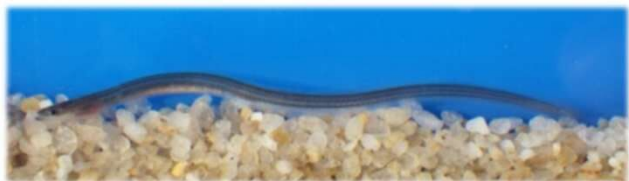
オス



メス



★ミナミメダカ



★ニホンウナギ



★スミウキゴリ



▲オオクチバス

3 大高川の水質

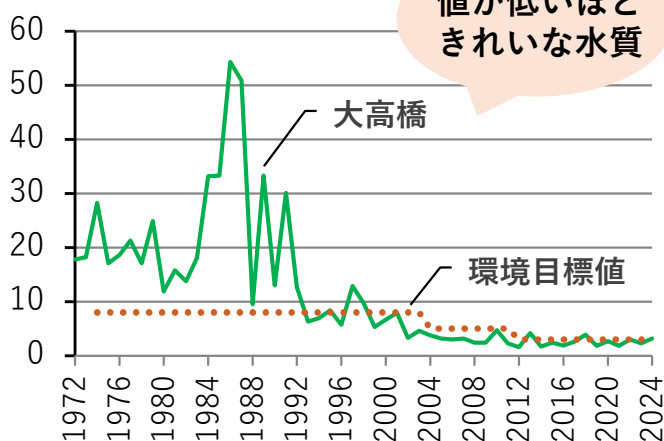
大高川流域の約30%は、大高緑地や市街化調整区域（名古屋市外）に指定されており、これらの区域では開発が制限されています。一方、市街化区域には古くから市街地が形成されているほか、1980年頃からは大規模な宅地開発が進みました。こうした宅地化の進行により、家庭などからの生活排水が大高川へ流れ込む量が増え、水質が悪化する時期もありました。

その後、1985年度から下水道の整備が順次進められ、生活排水が直接川に流入することが少なくなったことで、水質は徐々に改善してきています。

「大高橋地点」では、DOは環境目標値を達成しています。一方で、BODについては2013年9月に環境目標値が1ランク引き上げられて以降、目標値を達成できない年もあります。

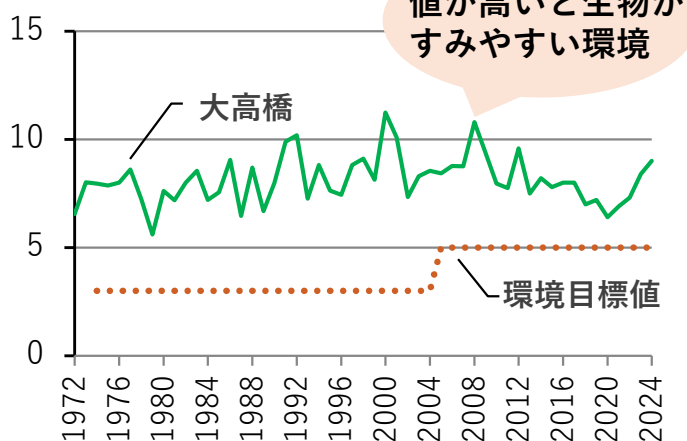
◆ 水質（BOD,DO）の経年変化

BOD 75%値 (mg/L)



環境目標値：(1974年～)8mg/L以下, (2005年～)5mg/L以下
(2014年～)3mg/L以下

DO 平均値 (mg/L)



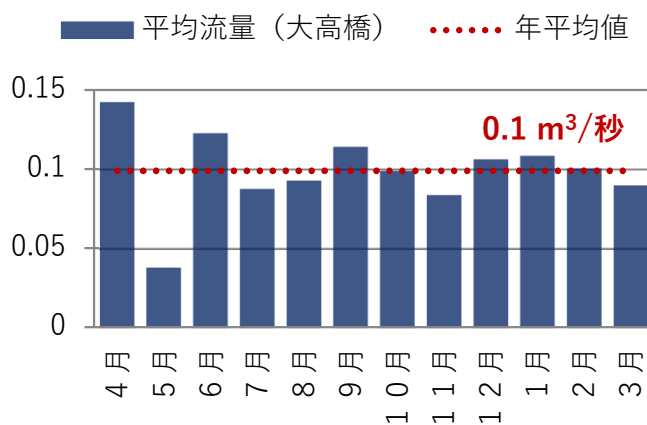
環境目標値：(1974年～)5mg/L以上, (2005年～)3mg/L以上

4 大高川の流量

大高川流域の生活排水などの汚水は、下水道の整備・普及に伴い、現在では柴田水処理センター又は鳴海水処理センターで処理され、天白川へ放流されるようになりました。その結果、大高川の主な水源は雨水のみとなっています。

かんがい期にはラバーダムから農業用水として取水されるため、下流では流れが極めて弱くなり、水がほとんど動かない状態になることがあります。

◆ 月別平均流量 (m³/s)



(2015年度年～2024年度)